歳暮ハ上下ノ別ナク、互ニ相往來シ、禮物ヲ贈遺シテ之ヲ賀スルコトハ、年始等ノ諸節ノ如シ、又餅搗アリ、煤拂アリ、其他歳暮ノ事タル信ニ繁シ、要スルニ舊ヲ送リ新ヲ迎フルノ準備タルニ過ギズ、除夜ノ如キニ至リテハ、特ニ一歳ノ最終ナルヲ以テ、一夜ノ中タレドモ殊ニ多事ニ屬ス、

名稱

〔改正月令博物筌十二月〕歳暮年仕舞

〔古今和歌集六冬〕としのはてによめる　在原もとかた

あら玉の年のをはりになるごとに雪もわがみもふりまさりつゝ

〔平治物語一〕院御所仁和寺御幸事

年〇平治元年ハ既ニ暮ナントスレドモ、歳末年始ノ營ニモ不及、只合戰ノ評定計也、

〔書言字考節用集二時候〕節季本朝俗臘月爲二節季一

〔華實年浪草十二月〕節季倭俗臘月謂二節季一、此節民間多辨二備春時之用物一、或謂二節小袖一、或謂二節薪一、或謂二節米一、

歳暮禮

〔後水尾院當時年中行事上十二月〕晦日、御ゆする參る、みな月に同じ、夕方常の御所にて一獻こぶあは、參る、勾當御としのみはなびらのかちんは、ちひさくひしに切て、御としの數、引合一重におしつゝむ、もて參る、御身のごはせまし〳〵て返したぶ、給はりてしりぞくやう、やく拂に同じ、御三間にて內々のをとこ衆、御さいまつ申、御さけなほしめして御座に著、申次勾當ないし、今夜もちらし油を供ず、

〔御湯殿の上の日記〕慶長八年十二月廿九日、御さいまつに、ない〳〵のおとこたちしこう、御みまにて御たいめん、申つぎ長はし、こよひの御さか月一こん參る、　九年十二月廿五日、すわうの中納言入道〇毛利輝元せいぼの御禮、御むま、たち玄ん上、くわんじゆ寺日ろう、長はしよりいづる、

〔光臺一覽五〕萩の城主松平大膳大夫兼長門守殿は、毎年禁中へ年頭歳暮勤められ候、大身之遠國大名可成由緒やらん、大名多きなかに一人の格式也、往來見申たる事の候文言、